

# 第1回横手市総合計画審議会会議録

日時 令和2年11月25日(水) 18時00分～19時50分  
場所 横手市役所本庁舎「第一会議室」

**出席者** 【委員】佐々木均委員、眞壁聡子委員(オンライン参加)、奥山ひとみ委員、木村忍委員、高橋美鈴委員、佐藤正弘委員、高橋雅博委員、堀内勝彦委員、高橋幸雄委員、奥山和彦委員、岡部宏哉委員、伊藤大介委員、佐藤実園委員、鈴木百合子委員、北野悟委員  
【市側】高橋市長(他の公務があり、議事の前に退席)  
(事務局)総務企画部長 村田清和、総務企画部経営企画課長 森田博範、同課課長代理 小田嶋あけみ、同課主査 大友孝之、同課主任 佐藤剛  
(関係課)農業振興課長 佐々木義和、食農推進課長 佐々木健悦、よこて農業創生大学事業推進室長 佐藤誠悦、商工労働課次長 高橋勝、観光おもてなし課長 藤倉幹夫、横手の魅力営業課長 松井尊臣、企業誘致課課長代理 木村和義、地域づくり支援課次長 首藤正己、文化振興課長 神谷昭浩、同課主幹 赤川博幸、山内地域課長 木村亙、教育指導課主査 一関大輔、秘書広報課長 高橋美貴子、同課主幹 辻正憲、国保市民課長 新田幸造、子育て支援課主幹 木村智子、同課副主幹 菅原美穂

**欠席者** 【委員】柿崎大二朗委員、岩根えり子委員、奥ちひろ委員

---

## 1. 開会(18:00)

## 2. 委嘱状交付

市長より出席した15名に交付。(※当日欠席した3名については後日配付)

## 3. 市長あいさつ

おぼんでございます。第1回横手市総合計画審議会開催にあたり一言ご挨拶申し上げます。

さきほど審議会委員として委嘱されました委員の皆様におかれましては、これまでも市のさまざまな施策に対し、ご指導ご鞭撻を賜っており、また、さまざまな取り組みに対しましてもご協力いただいておりますこと、深く感謝、御礼申し上げます。またこの度は、快く委員をお引き受けいただきましたことありがたく存じます。心より感謝申し上げます。

さて、当市の総合計画でございますけれども、10年を1つの大きな構想の区切りといたしまして、前後5年を基本計画、そして3年おきに実施計画という形で、実

## 第1回横手市総合計画審議会会議録

施計画は具体的にそれぞれしっかりと取り組み目標を掲げながら我々は動いていく形でございます。平成28年から令和7年度までの10か年の計画でございますけれどもこの委嘱期間、2年間でございますが、その都度これまでの計画の進行状況であるとか、取り組みであるとかを、評価しながら新しい取り組みに反映させていくというサイクルの中で我々もしっかり検証し、また新しい世の中の動き、流れというものもこの計画に織り込みながら、より今までよりも効果のある、また、横手市の発展により資するような計画とすべく皆さま方の大所高所からの幅広い見地からのご指導を賜りたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

なにせこのコロナ禍ということで世界また日本の人々の考え、価値観というものも大きく変わった。また、この身動きが取れない状況の中で一人ひとり、また、組織、組織がそれぞれこれまでを振り返り、また、これからを占いながらいろいろと考えさせられた、そういう時間を与えられたと思っております。おそらくコロナ禍以前と、コロナ禍以後はまったく元通りには戻らない。新しい価値観、考え、様式というものが発生する中で我々も生きていかねばならないと感じております。ただコロナ禍以前から引き続いております消滅可能性都市というレッテルが当自治体にも張られてしまいましたが、そのレッテルが張られた頃の現状と今とでは変わりなく、やはり危機的状況を今も抱えながら横手市は未来に向かわねばならないというふうに思っております。ただ、店じまいの準備をするのではなく、そんな厳しいご時世、世の中であつてもたくましく、希望もてる横手市として我々は発展のために尽力してまいらねばならないと思っておりますし、そういった舞台を若いこれからの世代にしっかり残していかねばならないというふうに強く思っております。若い人は、野心や希望や夢や楽しみや、さまざまなものを求めてこれまで都会へと、またさまざまな知恵や技術を身に着けた、いろんな実力を試したいという意味でも都会へと引き寄せられていった時代があります。今、このコロナ禍で若干人口の動態というものが少し変わっているような状況がございました。これまで社会減というような形で横手市ではひたすら人が横手以外に抜けていく、入りのほうが少ない現状がございましたけれども、今年度に入りましてからはその動きというものが若干違うベクトルで推移しておりまして、11月の情報は入手しておりませんが10月あたりまでは出と入りとでは入りのほうが多いというような状況で、おそらく戦後、近代に入ってから、自然減は致し方ないにしても社会減でひたすらきたこの横手市がはじめてそうじゃない瞬間がこのコロナ禍で生まれたという、今その状態というところでございます。まさしく今までもがいろいろ工夫をし、なんとかあがいてきたけれどもどうにもならなかった社会減というものに、このコロナ禍という事件がそのベクトルを止めたというような、これをチャンスと捉えずしてどうするのか。やはり私は好機と捉えなくてはいけないと思っております。そういったさ中での皆様方への委嘱でございます。どうか市民と我々職員とが同じ目線で同じ目標を共有してそこに邁進してしっかりその結果を評価できやすいように、そう

## 第1回横手市総合計画審議会会議録

いう計画に仕上げていきたいと思えます。どうか忌憚のないご意見を頂戴しながらよりよいものにしてまいりたいと存じます。何卒ご協力よろしくお願い申し上げまして委嘱を引き受けていただきました御礼と今後のご難儀に対する感謝の言葉に代えさせていただきます。本当にありがとうございます。

4. 委員紹介、職員自己紹介（※委員は委嘱状交付で紹介済みのため改めてのご紹介は割愛し、出席職員が1人ずつ自己紹介）

### 5. 会長の選出について

会長は佐々木均委員に決定。

（佐々木会長あいさつ）

皆様こんばんは。ただ今、今審議会の会長ということでご依頼がありまして皆様からご承認いただいたということで、私にとっては非常に荷が重いことではありますけれども皆様の絶大なるご協力を賜りまして務めさせていただきたいと思えます。どうぞよろしくお願ひいたします。

今、高橋市長からごあいさつがありましたように、第2次の計画につきましては10年計画で、ちょうど5年間の前半が過ぎたところというふうに向っております。平成26年度から約3年間に渡ってその当時の市民委員会の委員の皆様が、ここにいらっしゃる皆様もたくさんお見えな訳ですけれどもその皆様の熱心な議論として横手市の事務局の皆様のご尽力によって大変立派な計画ができたものと承知しております。ぜひこの機会に皆様のご専門の立場からしっかりと評価をしていただき、後半の5か年をどういうふうにするのかといったことについてお知恵を拝借できればありがたいというふうに向います。

これも市長のお話にありましたが、今、新型コロナウイルスの第3波襲来ということで、大変なことになっていて、それを耳にしない、あるいは目にしない日がない訳であります。例えば首都圏では人口が少し減少傾向にあってその周辺の都市部のほうに人口が流れているということは大分前から報道されています。さきほど市長から横手市でも10月の段階では社会増というようになると、やはり横手市にもそういう波が来たんだと改めて教えていただいた次第であります。

また、高校生の就職のシーズンであります。これもニュース等によりますと、これまでに比べて県外ではなくて県内を志望する高校生の割合が少し増えていったと、いろいろな状況があるのだと思えますけれども、私どもにとってうれしい側面もありました。とは言え大変な訳ですけれども、ただ大変なだけじゃなくて横手市のような地方都市にとってはプラスに働く追い風もあるのかなというように考えて、ぜひとも皆様の建設的なご意見を頂戴したいと思えます。大変簡単ですが、今日の質疑内容、大変ボリュームがあるようですので、この辺でご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

# 第1回横手市総合計画審議会会議録

## 6. 職務代理の指名について

職務代理に眞壁聡子委員が指名され、ご了承いただく。

## 7. 議事

### (1) 審議会の進め方について

(事務局)

資料2をもとに説明。

～質疑応答～

なし

### (2) 第2次横手市総合計画後期基本計画骨子案について

(事務局)

資料3-1、資料3-2をもとに説明したほか、資料に記載している以外の検討内容について次のように説明。

「現状と課題」について、「現状」の時間軸を、点を捉えた書き方と、計画期間の5年で捉えた書き方と混在しているため、内部で調整中である。

また、「新型コロナウイルス感染症」の文言を、正式名称の「COVID-19」を用いるか検討中であり、次回結果をお知らせしたい。

～質疑応答～

(佐藤正弘委員)

私からお願いというか、確認ですけれども8ページ、9ページの施策の1-5、「低所得者福祉の充実」というところがあります。この内容が生活保護の適正運用ということと、住宅確保要配慮者に対する住宅供給ということになっていると思いますが、実は生活保護に至る前の困窮者支援ということが非常に重要になってきています。困窮者自立支援相談事業ということで、くらしの相談窓口に今寄せられる相談が結構数が多く、しかも1つの相談の中にいくつもの課題を抱えて相談に来られるということで、生活保護の前の取り組みが非常に重要なことになっています。前期計画ではこの次の4の「施策の展開」のところに出てまいりましたけれども、この項目を「取り組み方針」の中に入れていただいて「現状と課題」を整理していただければよりわかりやすくなるのではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。

(事務局)

今ご指摘いただいた点は重要な視点だと考えますので、担当課とも協議の上、どうあれば適切なのかを考えて修正させていただきたいと存じます。よろしく願いいたします。

(眞壁聡子委員)

## 第1回横手市総合計画審議会会議録

さきほどのご説明の中に「現状と課題」のところ、現状がいつの時点の現状なのかもう少し明らかにするという話がありましたけれども、現状がどういう現状であるかということ、まずそれが重要なポイントでないかと思います。それぞれの施策のところ、書き方がさまざま、1つの●の中に現状があって課題が書かれているものもあれば、現状だけが書かれていて、次の●に課題が書かれているのがあります。いつの時点の現状か明らかにするという話がありましたので、今こういう現状なんだということをハッキリ分けて書くことはかなり難しいとは思いますが、現状を職員の方々が、市政を担っている皆さんがどういうふうに捉えているかということは非常に重要なので、もうちょっとわかりやすくなればいいかなと思いました。

それからもう1つ細かいことなんですが、16ページの施策2-4の「2. 取り組み方針」の2段落目ですが、「豊かな教養を身に付け」は市民一人ひとりのことではないかなと思います。誰が教養を付けるかということ、市民だと思います。その次に「芸術文化の振興を図るため」これは市として芸術文化の振興を図るためだと思います。市民が教養を高め、市が文化振興を図るためときいているところに、次が「市民のライフステージに応じた学習機会」というのが、なんかつながってこない。「市民が豊かな教養を身に付けるためにライフステージに応じた」というのであればわかるが、文化振興がここに入っているのが、最初読んだときにしっくりこなかったというのが、今、気が付いている2点です。

### (事務局)

非常に貴重なご意見ありがとうございました。まさしくおっしゃるとおりだと思います。どの時点という部分について、なかなか難しいというお話もいただきました。時点の部分、なるべく同じ形になるようにしつつも「現状と課題」の書き方についても全施策が同じ書き方になるよう留意してもう一度見直してまいりたいと思います。

それから、文書表現の部分については、もう一度検討させていただきたいと存じます。

突然のお願いで大変恐縮ですが、本日の審議会で、これだけの量の資料をすべてご覧いただきご指摘をいただくというのはなかなかしんどい作業だろうと思います。私どものメールアドレスを後ほどお知らせいたしますので、メールをお持ちであれば「何ページのこの部分をこうしたほうがいいのか」といったご意見につきましても後日頂戴できればと思います。メールが無理な場合、FAXなどもございますので、連絡先を後日お知らせさせていただきたいと思いますので、さまざまなお指摘、ご意見を頂戴できればと思います。よろしくお願いいたします。

### (委員長)

22ページから、環境保全に関する施策というふうになっていますが、例えば「動植物」を「生物」に変えているのは大変よろしいと思います。動物と植物を限定し

## 第1回横手市総合計画審議会会議録

たような感じですが、特に横手市は水資源が豊かでそこにいわゆる「ハリザッコ」がいるということで、大変よろしいかと思えます。ご説明にありましたように、国や県など他の施策と整合性を図ってということで、計画を作られていると伺いましたので、情報提供ですが、県のほうでは環境管理課が中心になって県の環境基本計画を策定中です。それから、自然保護課のほうが中心になって県の生物多様性保全戦略だったか、多様性を守っていくという施策をまとめている最中です。まだそれも作成途中なんですけど、もし情報が取り入れられましたらそういうのも見ていただいて整合性が図られれば大変いいかと思えますので、よろしく願いいたします。

(事務局)

承知いたしました。ありがとうございます。

(奥山和彦委員)

29 ページに「魅力ある農林業の振興」があります。今、山には熊とか猪とかカモシカ、普通の鹿もいます。どんどん、どんどん増えています。また、今年はブナの実もない、ドングリも山にない。当然里に下りてくるということになります。熊はたぶん餌を食べていないからまだ冬眠していないと思います。将来的にもっともっと人口が増えなかったときは、山がもっともっと荒れてくるし、そういう対策も何らかの形でやっていかないと。山のほうにそれなりのドングリの木とかブナとか。杉ばかりではなくそういうのも少しでも植えられるところは植えて、杉は伐採して落葉の所を作ってあげる。餌があればいくらかでも里に下りてこないのではないかと思うので、そういうものも中に入れておかないと、横手市の人口が7万人くらいになったとき、道路を歩いていると熊と一緒に歩いているというところまで、もしかしたら来ているのかもしれない。そこら辺も併せて将来の中に組み合わせておいたほうがいいのではないかなと思います。

それから、この頃テレビを見ると、子どもが両親にボコボコにやられたりするニュースが多いです。そういうのもできるだけ早く発見して施設に入れてあげるとか、そういうのも大切なのかなと思います。その部分も中に少し入れていただければと思います。

(委員長)

奥山委員から貴重なご意見をいただきました。これも喫緊の課題であると思いますので、ご検討をお願いしたいと思います。

(事務局)

ありがとうございます。承知いたしました。

(委員長)

他に皆さんよろしいでしょうか。それではさきほどお話がありましたように、お気づきの点があれば連絡をしていただくということで、(2)は大筋了承ということではよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

## 第1回横手市総合計画審議会会議録

(委員長)

ありがとうございます。それでは次に進めてまいります。

(3) 横手市まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について

(事務局)

資料4-1、資料4-2、横手市まち・ひと・しごと創生総合戦略（第5版）をもとに説明。

～質疑応答～

(高橋幸雄委員)

基本目標1の施策内容5番目にアンケートを無作為で行っているようですが、年齢はどの範囲になっているのでしょうか。

(事務局)

年齢のバランスですとか、男女のバランスですとか、地域のバランスですとか。ある程度均等に行き渡るような形で3,000人を抽出しております。

(高橋幸雄委員)

若者を増やすという目的ですよね。そうすると、ある程度若者は何歳から何歳ですよというのを決めてそのパーセントが大事になってくるのではないですかね。言い方は悪いですが、お年寄りに「住みたいか」と聞いても、いくら増えてもたぶんこの目標は達成できないので、その辺をもっと効果が得られるようなものが大事ではないでしょうか。

(事務局)

ありがとうございます。おっしゃる通りです。ただこのまちづくりアンケートにつきましては、人口減少だけではなく、広くその他の項目についてもアンケート項目として設けて行っておりますので、その部分での回答も得られるような内容になっております。今年度は、総合戦略の改訂を予定しておりましたので、20代、30代の方を対象に、11月にアンケートを実施したところです。全体の集計については、今取りまとめ中ですので、結果がまとまりましたら委員の皆様にもお知らせしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

(委員長)

ほかにございませんか。よろしいでしょうか。お気づきのことがございましたら、後でも結構ですので事務局にお知らせいただければありがたいと思います。実績の分析にあたっては、このような形でご了承と判断してよろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

(委員長)

ありがとうございます。それでは最後の議題に入ります。

(4) 第2期横手市まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子案について

## 第1回横手市総合計画審議会会議録

(事務局)

資料5-1、資料5-2、資料5-3をもとに説明。

～質疑応答～

(委員長)

資料5-1についてでありますけれども、一番右ところに共通目標ということで、「新しい時代の流れを力にするまちづくり」Society5.0の実現ということで、新しい流れを十分意識した共通目標を設定されていて大変よろしいかと思えますし、今日はご欠席ですけれども、その関係の方も委員にみえていらしゃるということで、大変よろしいかと思えます。それに関して気が付いたんですけれども、SDGsがごございますよね。皆様ご存じのとおり持続可能な開発目標ということで、各方面できれいなバッジをつけた方なんかたくさんいらっしゃいます。さまざまな開発を考える関係の皆様、それから、同時に自然保護とか環境保全を考える皆様が今一生懸命そのSDGsを考えて、かなり具体的に項目が大変多かったと思えますけれどもそれをなんとか実現しようと、さまざまな動きがあると思えますが、そういうところもこれから新しい時代のという観点から言えば、共通目標に入れる余地はあるのかなと感じます。ご検討願えればありがたいと思えます。

(事務局)

SDGsにつきましては、今のところなんですけれども、SDGsに特化した特別な事業は想定しておりませんが、いろんな市が行っている事業は少なからずともSDGsのどこかのゴールに貢献している中身になっているというように思っております。ですので、次の総合戦略を作るにあたってはそれぞれの基本目標1はSDGsのどのゴールに関係する取り組みなんだということがわかるようなマークの表示をしていくことを、今は想定しております。

(委員長)

ぜひ検討していただければありがたいと思えます。ほかに皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(「はい」という声あり)

(委員長)

だいたいこの基本線に添ってこれから骨子案をまたさらに練っていただくということで、皆様に了承していただいたということにいたしたいと思えます。どうもありがとうございました。

(1)から(4)を通して、ご発言が足りないとか、今お気づきになったというようなことがありましたらどうぞよろしく願いいたします。

(眞壁聡子委員)

資料5-1のところの共通目標のSociety5.0のところ、Society5.0の社会は私も学校に勤めているので、そういう社会で自分の役割を果たしていく人材の育成は大事だということを考えたりしている訳ですが、この基本目標4つの推進のために、



## 第1回横手市総合計画審議会会議録

共通目標として Society5.0 の実現に向けた技術の進展が、横手で掲げている基本目標の4つの解決にも貢献することが期待されるので、横断的に取り組むというように読んだんですけども、この横断的に取り組むのところがちょっと意味がよく分からなかったのですが、目標2の中でも取り組む、目標3の中でも取り組むということなのか、Society5.0 の実現に向けた技術の進展が確固としたものが1つあってその成果をどういうふうに生かしていくのか。なんとなく Society5.0 を目指す技術のための技術革新ってすごく大事なので、ここにくっつけたように見えてしまい、横断的という意味がよくわからなかったのです。

(事務局)

横断的などという説明がうまくなかったかもしれないですけども、それぞれの基本目標に掲げる取り組みに関わってくる共通の、先端技術を活用した事業などは、例えば「いきいきと働くことができるまちづくり」に限定される取り組みではなく、他の「新しい人の流れづくり」の部分でもそういった I o t を活用したような取り組みが展開できることが想定されますので、そこで共通した目標ということで、すべての基本目標を、それぞれ共通して一気に解決するという意味合いのものではなく、基本目標1の部分だけかもしれませんし、基本目標3の部分だけかもしませんが、それぞれにそういった先端技術を活用したような取り組みを展開していきたいというところで共通した目標を掲げていきたいということです。

(眞壁聡子委員)

ありがとうございました。

(委員長)

横断的ですから、普通は目標1から4まですべて関わってくるのでという感じになると思いますが、もし可能であればまた表現をさらに練っていただければありがたいと思います。大変かと思いますが、よろしく願いいたします。

他にございませんか。よろしいでしょうか。それでは、皆様の絶大なるご協力によりまして無事に4つ終了しました。ご協力ありがとうございました。以上で議事を終了いたします。

## 8. その他

(事務局)

さきほど議事の中でもお話しさせていただきましたが、次回は来年1月上旬を予定しております。日程等会長とも打ち合わせをさせていただいて決まりましたら、委員の皆様にご連絡を差し上げたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

それから、本日膨大な資料を見ていただいて、この場でご意見をいただくまで見ていただく時間がなかったかと思っておりますので、後ほどご連絡をいただけるようにメールアドレス等記載したものを皆様にお知らせしたいと思っておりますので、どうぞよろ

## 第1回横手市総合計画審議会会議録

しくお願いいたします。

(事務局)

本日は長時間にわたりましてぎゅうぎゅう詰めの資料を説明させていただき、ご審議いただきましてありがとうございました。

以上をもちまして横手市総合計画審議会を閉会いたします。長時間にわたりありがとうございました。

9. 閉会 (19:50)